

「暮らし」を守る



三間町にある市指定文化財「旧毛利家庄屋住宅」
特徴の1つである茅葺き屋根の葺き替えが、
約20年ぶりに行われました。
今となっては珍しい風景ですが、
昔は当たり前に行われていた暮らしの一部です。
今月は、「暮らし」を守るをテーマに、
毛利家を守る人たちの活動取材しました。

当時の暮らしが残る場所

260年にわたって残る旧庄屋毛利家

そこでは今も、昔ながらの営みが見られる



①



④



②



③

当時の農村の暮らしが残る



旧庄屋毛利家（三間町是能）

三間町是能地区の谷間にたたずむ旧庄屋毛利家屋敷（以下、毛利家）。約260年前に建てられ、今でも当時の姿をそのまま残し続けています。建物の中には、明治時代のオルガンや囲炉裏、火をおこす炊事場などが残っています。当時の暮らしが感じられる空間が広がり、そこだけタイムスリップしたような雰囲気を味わうことができます。

管理は、NPO団体三間の文化財「旧庄屋毛利家」を守る会（以下、守る会）が行っています。今年の1～2月に行われた屋根の修繕作業では、昔ながらの風景を一目見ようと多くの人が訪れました。

■旧庄屋毛利家屋敷って？

平成6年に旧三間町で有形文化財に指定された江戸時代から残る庄屋の屋敷です。屋敷の形態や屋根などには当時の豪農屋敷の特徴が残り、農業で繁栄していたことを示しています。

守る会が中心となり、修繕などの保存活動やイベントなどを開催しています。また、史料などの保存活動も行われています。

※3月の市政広報番組でも紹介しています。



囲炉裏など当時の家財が残る



11月のつるし柿は写真映えする風景



3月にひな飾りなど四季折々の催しを開催



⑤

①大規模な葺き替え作業②作業前の状態③古くなった茅を新しいものに交換④守る会のメンバーが連日作業を手伝う⑤計13tの茅を使用⑥昇降機で茅を屋根まで運ぶ⑦茅を葺き竹組に紐で固定。この作業を12回繰り返す⑧断面を整える⑨約20年ぶりにきれいになった屋根



⑥



⑨



⑧



⑦



この場所を守るかい

―旧庄屋毛利家を守る会のコト―

この貴重な建物を、
皆が和める場所として残そうや。
その声に100人以上が集まった。



地元が頑張らんといけん

松笠さん（副会長）

約2週間続いた屋根の葺き替え作業には、守る会の皆さんがボランティアで協力してくれました。連日10人以上が参加し、資材運びや古茅の処分などの雑用を担ってくれ、おかげで無事に屋根をきれいにする事ができました。会の皆はお願いしたら「地元やけん」といつでも協力してくれるのですごくありがたいです。これからも地元がメインとなって頑張ってお守っていきたいです。



作業で出た古茅の掃除などの雑用を、会のメンバーがボランティアで買って出てくれた

■三間の文化財「旧庄屋毛利家」を守る会

地元有志で平成7年に結成。価値ある建物を残したいとの想いから、募金などを行い保存活動に取り組んでいます。「旧庄屋毛利家」の保存と農村文化の継承を目的に、さまざまなイベントも開催しています。



■活動の歴史

平成7年に三間町内外約100人の参加により、活動が始まりました。

屋敷を保存することで、農村文化の継承と、和みの場として町おこしにつなげ、三間の良さを次世代に引き継ぐことを目的に活動しています。

一度消えてしまえば新しく建てることはできない貴重な建物。地元の是能自治会では、今では約80%以上が会員になっています。

平成10年の屋根葺き替えでは、保存のための茅を会員が3年かけて集めました。大野ヶ原や松野町に出向き草刈りから運搬までを行い、その結果3年間で約1万2千束を確保しました。また、寄附のお願いにも奔走し多くの寄附金が集まりました。

そのほかにも、結婚式や写真展。音楽イベントなど催しが行われるときは中心になって活動しています。



3月上旬まで古写真展を開催中



いつまでも残して

片桐さん

平成10年の葺き替えのときは、全国の皆さんからの寄附があり屋根の葺き替え工事をすることができました。それだけ皆さんからの想いも感じています。今回の作業で一区切りついた感じはありますが、これで完成ではなくこれからがスタートです。新しい時代に引き継いでいきたいです。



完成間近には疲労困ぱいに。それでも完成目指して一踏ん張り



誇れる文化財として

毛利さん（毛利家当主）

毛利家のすぐそばに住んでいるので毎朝晩屋敷の窓を開けて風を通したり、落ち葉を掃除したりしています。毛利家は、四季折々の景色が楽しめて飽きることがないところです。宇和島の文化財やけん、人が来たときに見苦しくないように、これからもきれいにし続けたいです。



誰か来たときに空気が悪いといけないと毎日換気を行う

かけがえのない「日常」の価値

いつしか心の拠りどころにー。
毛利家を守る活動を通して、
日常の価値に気付いた。

ここに来るとココロが和む

「ここに来るとなぜか心が和むよね」と話す安岡さん。広い庭や池、つい腰をかけたくなる縁側。疲れたときはいつの間にか向かっているところもあるそうです。安岡さんにとって毛利家の存在は、人と人とが関わり合い、心が通い合う場所であり、まさにココロまじわうトコロになっているのかもしれない。

「守る会のメンバーは平均年齢70



守る会 会長 安岡さん。囲炉裏が絵になる。

文化財を残して活かす

当時の暮らしが確認できるほど、そのままの形を残し続けている建物は県下でも珍しく大変価値のある建物です。それを守りたいと取り組んでいる守る会の活動には、私自身大変楽しく関わらせてもらっています。古文書だけでなく、納屋には当時の農機具や古写真など当時の暮らしを示す史料が多く残され、大変興味深いものがあります。最近では、その価値を見直し、残すだけではなく活用する取り組みも広がっているのが大変うれしいです。

今後は毛利家でも、農機具や古写真の展示会などを開催し、歴史



毛利家史料調査会
宮本 春樹 さん

本市出身。教員を退職後、県内文化史料などの保存活動に従事。毛利家にも多くの古文書が残されており、修復・保存活動に取り組んでいます。

ある建物を活用して皆さんがその歴史に触れる機会を設けていきたいと思っています。



納屋から見つかった農機具を展示。
その時代の暮らしが垣間見える。



①安岡さんも連日作業に参加②最後の片付けまで守る会の皆で協力して取り組む③完成した茅葺き屋根

歳の年寄りばかりだけど、皆積極的に活動に参加してくれている。この場所が、昔の人も今の人も含めて、皆の憩いの場所になるように、これからも残していきたい」と安岡さんは話します。

残したい宇和島の日常

2月上旬まで行われた毛利家の屋根葺替え作業に多くの人が見学に訪れました。この作業も、昔は珍しくもなんともない、当たり前に行われていた日常の風景だったはずです。古いからと壊してしまっただけではなく当時の暮らしも失ってしまうことになりませう。

本市は今年度から、住む人がもつとまの魅力に気付けるよう、宇和島にある日常の豊かさを見つけ直しています。毛利家で営まれてきた当時の人たちの暮らしも、宇和島にあった日常です。それを守る会が残してきたことで、今の人もその魅力に気付くことができます。今当たり前にある風景も将来は失われるかもしれないかもしれません。今あるものの見方を変えてみることで、新しい魅力を発見し、その価値に気付けるのではないのでしょうか。あなたが残したい宇和島の魅力を見つげるため、日常を見つめ直してみませんか？

守る会もまた、全国に誇れる宝



葺き替え職人 川上さん

高知県橋原町の葺き替え作業の職人さん。今では職人も少なくなり、川上さんは茅葺き屋根の作業で全国を飛び回る。

今回、この貴重な建物の作業に携われて光栄です。茅葺き屋根の修繕作業は今と成っては需要も少なく、全国から修繕の依頼が多くあります。作業は屋根の竹組みに茅を被せてひもで固定を繰り返します。不必要な穴を開けずにひもを茅の中に通していくことは、簡単そうではありますが慎重さが必要です。

う強い気持ちを感じました。全国でも、このように作業に協力してくれるところはありませぬ。建物と同じく、守る会の皆さんの取り組みもまた、全国に誇れる価値を感じました。



川上さんがすると簡単そうな作業も、まねできない職人の技